

IBS フェローシップ活動報告

IBSは、わが国の学術研究活動に寄与することを目的として、研究助成制度（IBS フェローシップ）を実施している。これは、IBSの創立30周年を記念して創設されたもので、1994年度より第1回目開始された。以降、毎年2課題についてそれぞれ一人の研究者を公募し、2年間の研究期間にわたり、海外における特定課題の研究を助成し、研究成果を公表している。

これまでに13編の報告がなされ、1編は現在継続中、本年度は新たに2課題の委嘱研究者を決定した。

平成14年度は、研究成果として第6回の第1課題「カナダ内陸部の或る住宅団地形成経過の考察」（委嘱研究者 勝又太郎）、第7回の第2課題「イギリスの地方都市ニューベリーのバイパス道路について」（委嘱研究者 村上陸夫）の2編について最終報告がなされた（概要を pp.71~84 に掲載）。

また、新たに3課題について公募し、13名の応募者の中から選考の結果、第8回目として2名の研究者に研究を委嘱した。研究課題と委嘱した研究者は次の通りである。

平成14年度の新たな研究課題と委嘱研究者

第8回第1課題：「米国大都市圏計画制度の経緯と背景にある政策意図の分析」

米国における広域都市圏計画の仕組みや制度は、1920年代から始まり1960年代に普及、一般化した。その後、1990年代に陸上輸送効率化法の創設により広域的な交通施設の整備推進の仕組みとして再活用されることとなった。このような仕組み、制度がどのように成立し、どのように変化したのかを、連邦、州、都市がどのような政策意図をもって関与したかに焦点を当てて考察する。

服部 圭郎（株式会社 三菱総合研究所 海外開発事業部）

第8回第2課題：「『サッチャーリズムの都市計画』の特徴と成果、問題点の考察」

現在のイギリスは1970年代の衰退期社会から脱却して失業率3%、成長率2%の社会に再生した。そのおおもとが新自由主義のもとに政治・経済を主導したサッチャー政権である。彼女の政策は、「規制緩和」、「経済特区」、「GLCの廃止」などと知られるが、特に経済政策を都市政策、都市計画に持ち込んだ。その特徴と成果、そのプラスとマイナスを具体的に分析し、経済開発と都市計画のかかわりを論ずる。

東 秀紀（財団法人 広域関東圏産業活性化センター プロジェクト開発部）

表 研究課題および委嘱研究者

(肩書きは最終報告時)

第1回 1994年度	第1課題 「業務拠点都市・クロイドン開発の歴史的経緯」 西山 康雄 (東京電機大学 建築学科 教授)
	第2課題 「Milton Keynesにおける自動車の利用と道路計画に関する実証的研究」 高橋 洋二 (東京商船大学 流通情報工学科 教授)
第2回 1995年度	第1課題 「Hammerfestの戦後復興における市街地整備に関する研究」 谷口 守 (岡山大学 環境理工学部 環境デザイン工学科 講師)
	第2課題 「キティマツトリーソース・フロンティアにおけるサステナブル・ディベロップメントの可能性」 榎戸 敬介 (株式会社 アーバンハウス都市建築研究所 研究員)
第3回 1996年度	第1課題 「地方空港の歴史と将来 —シャノン・ガンダー・中標津—」 田村 亨 (室蘭工業大学 助教授)
	第2課題 「新首都の誕生と成長 Canberraの100年」 岸井 隆幸 (日本大学 理工学部 土木工学科 教授)
第4回 1997年度	第1課題 「田園地帯の計画と保全—田園都市論の影響と今日的意義—」 風見 正三 (大成建設 設計本部 環境デザイングループ)
	第2課題 「ロンドン・ミューズの誕生・死・再生—世界の都心居住空間の再生を目指して—」 宇高 雄志 (広島大学 工学部 建築学科 助手)
第5回 1998年度	第1課題 「ローマ市郊外と東京都市圏の大型ショッピングセンター形成化にかかわる比較研究」 堀江 興 (新潟工科大学 大学院 教授)
	第2課題 「メキシコの小都市メックスカルティトランの都市の自立性とその将来について」 斉藤 麻人 (ロンドン大学 政治経済学院 地理環境学部 大学院)
第6回 1999年度	第1課題 「カナダ内陸部の或る住宅団地形成経過の考察」 勝又 太郎 (株式会社 東京三菱銀行 ストラクチャードファイナンス部)
	第2課題 「欧州と日本における港湾と企業物流の動向」 土井 正幸 (筑波大学 社会工学系 教授)
第7回 2000年度	第1課題 「コパカバナ地区で働く人々の住宅と職場の関係」 土生 珠里 (九州大学大学院 人間環境学研究科 空間システム専攻 社会人博士課程)
	第2課題 「イギリスの地方都市ニューベリーのバイパス道路について」 村上 睦夫 (株式会社 都市プラン研究所 代表取締役)
第8回 2002年度	第1課題 「米国大都市圏計画制度の経緯と背景にある政策意図の分析」 服部 圭郎 (株式会社 三菱総合研究所 海外開発事業部)
	第2課題 「『サッチャーリズムの都市計画』の特徴と成果、問題点の考察」 東 秀紀 (財団法人 広域関東圏産業活性化センター プロジェクト開発部)

IBS フェロウシップ実施要領 (抜粋)

- 課題は毎年原則として2課題とし、それぞれ、1名の研究者に委嘱する。
- 研究者は、学歴、職歴を問わないが、海外生活経験者を原則とする。
- 募集は関係機関(大学、団体、学会その他)機関紙・誌等を通じての公募とし、運営委員会の選考を経て、研究者を決定、公表する。
- 選考された研究者は、以下の報告の義務を負う。
 - ① 選考された年のIBS創立記念研究発表会(通常7月14日)に研究方法の概要を発表
 - ② 2年目の同発表会に中間報告を発表
 - ③ 同年度末までに最終報告書を提出
 - ④ 3年目の同発表会に最終報告を発表
- IBSは、提出された最終報告書を3年目の発表会で公表する。
- 上記以外の研究成果の発表は研究者の自由である。
- 提供する研究費は毎年定めるが、その用途についての制限は設けない。研究者が研究費により入手した資料の所有権は研究者に帰属する。